

船舶事故等調査報告書

平成27年9月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015 広第18号
事故等種類	衝突
発生日時	平成27年1月27日 08時10分ごろ
発生場所	愛媛県今治市大島北東方沖 六ツ瀬灯標から真方位226° 3,050m付近 (概位 北緯34° 10.53′ 東経133° 06.36′)
事故等調査の経過	平成27年2月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 ななせ、2.2トン EH3-54222（漁船登録番号）、個人所有 第281-36742号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 大神丸、5トン未満（長さ6.90m） 281-18963 愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 B 船長B、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	A 右舷外板に擦過傷 B 右舷外板に擦過傷、オーニング支柱に曲損、船尾スパンカーに折損等
事故等の経過	A 船は、船長Aほか1人が乗り組み、大島北東方沖を約18ノット（kn）の速力で手動操舵により東進中、船長Aが右舷船首方1,600m付近にB船を認め、B船を約100～150m離して通過するつもりで航行を続けた。 A 船は、船長Aが、寒かったので手袋をしようと思い、舵輪から手を離し、下を向いて舵輪の近くにある引き出しから手袋を探していたところ、平成27年1月27日08時10分ごろ、その船首部とB船の右舷船首部とが衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、大島北東方沖において、船首を西方に向けて機関を中立とし、釣りを行いながら漂泊していた。 船長Bは、右舷船尾部で船首方を向いて釣りを行っていたところ、右舷船首方600m付近にA船を認めた。 B 船は、船長Bが、A船の操縦席に人影が見えており、A船が漂泊中のB船をいずれ避けてくれるものと思い、釣りを行っていたところ、A船と衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 3、視界 良好

	海象：波高 約0.2m、潮流 東流約0.5kn、潮汐 下げ潮の末期
その他の事項	<p>船長Aは、手袋を探そうとして舵輪から手を離したときに、右舵が取られた状態で手を離したか、体の一部が舵輪に当たったかして徐々に右転し、B船に接近したのだろうと思った。</p> <p>船長A及び乗組員は、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>船長Bは、救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>A あり、B あり</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A船は、大島北東方沖を手動操舵で東進中、船長Aが、舵輪から手を離し、手袋を探していて見張りを行っていなかったことから、徐々に右転してB船に向けて航行していることに気付かず、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、大島北東方沖で釣りをを行いながら漂流中、船長Bが、接近するA船を認めていたが、A船が漂流中のB船をいずれ避けてくれるものと思い、見張りを適切に行っていなかったことから、A船がB船を避けずに接近することに気付かずに漂流を続け、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、大島北東方沖において、A船が手動操舵で東進中、B船が釣りをを行いながら漂流中、船長Aが、手袋を探していて見張りを行っておらず、また、船長Bが、A船が漂流中のB船をいずれ避けてくれるものと思い、見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。 ・ 漂流中、接近する他船を認めた場合、その動向に注意して、避航の様子が見られないときは、時間的にも距離的にも余裕がある時機に、機関を使用して移動するなど、衝突を避けるための措置を適切に講じること。